

1. 大学生の特性を活かすヒント - 子どもたちの自己肯定感を高めやすい

特定非営利活動法人ビーンズふくしま

仮設住宅の訪問を続ける中で、子ども達の居場所や楽しい時間を確保してきましたが、その中で、「あれ、ちょっとおかしいな」という状況も見えてきました。

大学生ボランティアの反省会や事前の打ち合わせなどでも、子どもとの関わりの点で疑問をもったり、悩みながら試行錯誤している様子も見られました。

支援の中で見られた子どもの言動

- ・活動時間中、大きな声を出して走り回る
- ・ちょっとしたことで癩癪をおこす。
- ・小さい子や自分より力の劣る子に悪口や馬鹿にするような行動をとる。
- ・学生や大人をわざと怒らせる言動をとる。



- ・落ち着かなかった子どもが、工作に集中したり学生の話聞くようになった。
- ・学生と子どもが皆一緒になって行動する機会が増えた。
- ・癩癪やイライラの治まるようになってきた。
- ・学習のわからない所を聞いてくるようになった。
- ・子ども同士のつながりが深まった。

子ども達の言動の背景には、震災による生活の変化やストレスの影響が大きく関わっていました。一緒に思いっきり遊ぶ。いいところは褒める。悪いことははっきり伝える。関わり方を考え、子どもと向き合う中で、信頼関係が強まり、子どもの行動も少しずつ変化してきました。



2011年12月 6か所の仮設住宅の子を大学に招待してのクリスマス会